



藍綬褒章

受刑者の更生と社会復帰を支える

教誨師
難波 光裕さん
矢留町、76歳

平成6年から25年以上、刑務所や拘置所で受刑者と向き合う教誨師を務めている難波さん。「今回の受章は、両親や妻、友人、受刑者、関わってもらった皆さんのおかげです」と受章の喜びを語ります。熊本県山都町の寺の次男として生まれた難波さんは、大学卒業後、僧侶になります。その後、父の後を継ぎ、30歳で矢留町の常願寺に入りました。

親戚の勧めで教誨師になったという難波さんがこれまで接してきた受刑者は延べ2500人以上。20年以上前、殺人の罪を犯した死刑囚と2年間、ほぼ毎月1回対面していた難波さん。初めのうちはおっかないという思いがあったそうですが、その死刑囚には息子がいて、毎月面会に来てくれたり、結婚相手を連れてきたりしたことを話してくれるようになったそうです。話し込んで昼食時間

を過ぎたこともあったとか。また、死刑囚は息子に頼んで手に入れた辞書ほどの厚さがある経典を熱心に読み込んで、自身の罪を悔いていた様子だったそうです。そんな中、死刑は執行され、「何でこんな人が罪を犯したのか」と複雑な心境になったといいます。

受刑者の中には、難波さんの勧めをきっかけに、習字や自動車の免許、簿記などを熱心に勉強し、特別技能の習得を目指す人も。その姿は、他の受刑者にも良い影響を与えたそうです。難波さんは受刑者との最後の面会のとき「絶対にここに戻ってきたら駄目だ」と必ず言って、受刑者の更生と社会復帰を切に願っていたといいます。「人間の思いに触れることができたら良かった。僧侶として仏教の教えと通じるものがあり、教誨師は自身の勉強になっています」と語りました。



ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。

column
No.69

地域おこし協力隊

▼オンライン川下りができたら楽しそう



オンライン〇〇はいかがですか

コロナの影響で、私たちが経験したことのない事態が広がり、生活様式は大きく様変わりしようとしています。今回のような不慣れた環境下で発明は生まれるもので、話題のオンライン飲み会は、「リアルな飲み会よりも気楽で楽しい!」と広まり、さまざまなオンライン〇〇が誕生しています。

私も考えてみました。世界中のお客さんが同時にネット上のどんこ舟に乗船して柳川観光を楽しむ「オンライン川下り」や、ぶどう園のスタッフをオンラインで操作する「オンラインぶどう狩り」など。摘んだブドウは宅配便で届いたら楽しいと思います。

現代の先端技術は、低コストで気軽に挑戦でき、新たな客層へのPR効果も期待できると思います。私が力を入れている海苔の分野も、海苔の種の培養から動画を撮影しながら付加価値を提供できるサービスを模索しています。ピンチの中でも新たに生まれるチャンスに挑戦していきたいと思いつつ活動しています。



福永 純一 (49歳)

【プロフィール】市観光課に所属。「福岡有明のり」PRおよび新たな商品開発を担当



子どもたちが考案したメニュー

ワッセつばめレストラン 開店

「自考自足」をテーマに、子どもたちが自由な発想でオリジナルメニューを作るワッセつばめレストランを4月4日に、交流館なかしまワッセで開きました。子どもたちは、レストランを開くまでの過程を初体験し、お互いに大きな学びの場となりました。

みやま市のルフランカフェの店の1つ「alnico」では、お客さんに喜んでもらえるような味や盛り付け、衛生面に気を付けること、大牟田市のカフェ店「Rooth」では、ドーナツ作りや接客など、レストランを開くうえで大切なことを学びました。また、有明海漁連の協力で、海苔すき体験や味比べなどで食材のアドバイスをいただき、メニューへのアイディアに生かすことができました。

実際にレストランまで食べに来てくれたお客さんの笑顔を見て、子どもたちも喜んでいました。皆さんのご協力で、無事イベントを終えることができました。1日も早くコロナが収束し、次期つばめイベントが組めるようになることを願います。



吉川 雅俊 (34歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川観光の未来を担うマルチプレーヤーを担当

川柳

今月の入選作品・課題 「乗る」 「雑詠」

駅長の笛ながたと終列車

野片義博(隅町)

旅の終わりが。線路はまっすぐ故郷へ続く。テールランプは心残りも引きずりやがては闇の中へ。ふと父と母とを見送った日のことを思い出した。あの日のクラクションも長かった。あれもまた人生の旅の終わりの。哀切の浮かぶ作品である。 流青

- | | |
|------------------|--------------|
| 助手席はケンカをしても君が乗る | 船瀬憲二 (南長柄町) |
| 赤バイクに乗ってマスクが二枚来る | 佐田輝喜 (明野) |
| 手にのせて転がすはずが転がされ | 中村鶴幸 (下宮永町) |
| 働きに乗り出す海に朝日射す | 梅崎省二 (佃町) |
| 燃えた日の記憶に連れて生きてみる | 古賀幸子 (横山町) |
| 春一番コロナを乗せて暴れ出し | 江口和子 (今古賀) |
| 自粛中木香バラに癒されて | 古賀治美 (南浜武) |
| 乗り遅れ心変わりの迷い道 | 池田美幸 (佃町) |
| ささやきに乘らぬ賢い耳欲しい | 山田美代子 (下宮永町) |
| 大宇宙ちっちゃな星に人の群れ | 浦 哲之 (栄) |
| 穏やかに乗れる日待つ豪華船 | 津留和巳 (六合) |
| 乗り切って歩いて行こう高齢者 | 佐藤良子 (蒲生) |
| 脂乗る魚もコロナで味気なき | 荒巻三エノ (南浜武) |
| よどみなく語る詐欺師の口車 | 野片博之 (柳河) |
| 閉じこもる病の冬もきつと開く | 山口房子 (白鳥) |
| 肩車乗せた子供の顔みたい | 大橋美嗣 (棚町) |
| 夢乗せて弾んでいようランドセル | 河口廣子 (白鳥) |
| ゆるるりと牛車に乗りて島巡り | 大橋弘茂 (百町) |
| 満開のさくらを愛でて姉は逝く | 甲斐田園一 (吉富町) |

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。6月の課題は「一時」 「雑詠」。入選作品は8月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報係(☎77・8425、FAX 74・5520)へ、6月22日(必着)までにお送りください。

ろうそくの瘤に流れている時間

流青